

< 議案について >

森川ヤスエ議員（日本共産党）

議案第2号、議案第8号、議案第9号、議案第20号に反対 その他議案は賛成

議案第2号について、上水道会計、国保特別会計が独立採算だからと、全てを市民負担に転嫁するという安易な方法を取るべきではなく、行政として検討するべき。マイナンバー

制度は誰も恩恵を受けることはなく、国に対して廃止を要望すること。地域づくり推進事業費の一括交付金は時期尚早で、期限を区切って全市に強引に進める手法は賛成できない。議案第8号、第9号は、上水道、下水道料金値上げの当初予算であり反対。議案第20号は、長年にわたり本市の行政に貢献されてきた職員の退職手当を引き下げる案であり反対。

藤浪清司議員（公明党）

全議案に賛成

議案第2号について、平成30年度から集団適応健診（5歳児健診）を対象年齢の全ての児童に実施するなど、スムーズな就学へつなぐための支援体制の充実を図っていくための予算などが計上されており、一部の予算に対

する反対を理由に否決することは、全ての事業の執行を遅らせることになるので、議員各位の賛同を求めたい。今後、財政の健全化に努めるとともに、計画的に、教育や健康維持など将来を見据えた投資に対して必要な予算措置を行うべきであり、学校トイレの改修や老朽化した教育施設の改修、IT化など教育環境の整備予算の拡充を求める。

森 雅之議員（自由民主党鈴鹿市議団）

議案第14号に反対 その他議案は賛成

国保の賦課限度額の引き上げ（現行89万円から93万円）に反対する。低所得者層に対しての保険料の5割軽減と2割軽減の拡充には賛成の立場である。国保の限度額の推移は、平成5年が50万円、平成20年度は68万円、平

成30年度には93万円となっている。国保料は必要な医療費を加入者に割り振る仕組みであり、加入者の負担能力や生活実態を把握し、負担できる保険料額が課される仕組みではない。国保は、無業者や低所得者、高齢者がほとんどを占めており、市民の健康を守る皆保険制度であり、セーフティーネットである。国保の構造的な問題への着手が急務である。

中西大輔議員（鈴鹿の風）

全議案に賛成

議案第2号、第17号について、以下の意見を述べる。

議案第2号について、予算編成で厳しい財政が理由に挙がるのであれば、人件費にメスを入れる必要がある。各種計画の検討について、

若い世代も含めた市民参画を推進すべき。今年が総合計画2023前期計画の最終年で重要な1年。政策選択にあたり、事業を縮小、もしくは仕分ける必要がある。また、予算の精度向上に取り組むべき。行財政運営の透明性を高め、中高生でも分かりやすい形で情報開示すべき。議案第17号に関し、今後も多様な人材が消防団活動に参加できるように検討すべき。